



Die Eiche ティ・アイヘ

Japanisch-Deutsche Gesellschaft in der Präfektur Chiba

事務局 〒274-0822 船橋市飯山満町2-681 ワールドナーシングホーム内

Phone: 047-467-6111 Fax: 047-467-6123

新春講演会開催

石河講師



臼井名誉会員・石河講師を囲んで



当協会恒例となった今年の新春講演会は、2月4日14:30より千葉大学けやき会館内のレストラン「コルザ」に25名の会員が集まり開催された。本年は「国際政治の本質と外交のウラ・オモテ」と題して、明海大学客員教授の元外交官、石河正夫氏（当協会会員）にお願いした。（内容は下記）

石河氏は、会場にやって来られた臼井日出男名誉会員をはじめとする会員を前に国際政治の舞台では大国が強大な軍事力を背景に思いのままに行動している現状を、自身の経験を踏まえて生々しく語り、新聞やテレビでは理解できない外交の裏側を垣間見てくれた。講演終了後、臼井名誉会員は乾杯の挨拶で「平成8年3月に台湾海峡で中国が大演習を実施、台湾に圧力を掛けた際、アメリカはインデペンデンスとミニッツ二隻の空母を派遣して威嚇、これら空母が原子力潜水艦デストロイナーを伴っていた為、緊張が高まった際、防衛庁長官として対応に追われた」とコメント、後もしばらく会員と懇談された。17:30に閉会。

日本とドイツは第二次大戦の惨禍を経験し、共に政治小国、経済大国としての役割を果たしてきたことは共通している。しかし冷戦が終結し、平和の配当を享受しているのはドイツである。日本は戦後処理も未解決である上、東アジアでは厳しい冷戦構造が継続されており、とりわけ日本周辺（朝鮮半島・尖閣諸島）での軍事的紛争のリスクも高まっている。第二次大戦から、日、独が学んだことは対照的であった。日本は島国の為、多面的外交を必要とせず、軍事力をタブーとしてきたのに対し、独は近隣諸国とともにEUの大國として安定しつつある。

日本の安全は基本的に米国の軍事力、特に核の傘に依存しているが、磐石ではない。グローバライゼーションが進行しているのは経済面だけでなく、政治、軍事面においても同様であるからである。長期的な対米依存心が日本人の自衛と独立の意識を次第に蝕んできた結果、米国との核の傘に庇護されているのを忘れたかのように日米同盟を損なうような発言を声高にする評論家もおり、多くの日本人をして国際政治の本質を見失わせている。

自分は、かつて外務省において、沖縄返還交渉問題、G7サミット等を担当した際、軍事と外交が如何に密接不離な関係にあるかを痛切に思い知らされた。

特に核兵器に関連した具体例を挙げてみると①沖縄返還交渉に於ける「核つき」「核抜き」問題②一九七一年のニクソン・ショックも背景はソ連が中国国境に核兵器を配備したこと③九六年、台湾をめぐる危機では米国が原子力潜水艦を派遣して終結④印パ对立もパキスタンの核開発で均衡化⑤北朝鮮の核開発問題⑥七九年末ソ連がSS20の中距離ミサイルを配備したのに対しNATOがパーシングIIを配備して、結局SS20を撤去させるのに成功しましたこと等である。最近中国の海軍力増強は顕著で、東シナ海におけるパワー・バランスが中国に傾いていることは、ガス油田開発問題にも微妙な影響を与えている。近隣諸国となり心配すると相手の思う壺である。長期的には海洋国家たる米国との同盟強化が肝要である。

「国際政治の本質と外交のウラ・オモテ」

明海大学客員教授

石河正夫

～今後の催物案内～

1. ドイツ視察旅行

- 5/19 成田発 デュッセルドルフ着
- 5/20 同市ジャパンデー参加
- 5/21 ライン川～ハイデルベルク
- 5/22 ヴュルツブルク見学
- 5/23 ローテンブルク～ミュンヘン
- 5/24 ノイシュバンシュタイン城見学
- 5/25 ミュンヘン発
- 5/26 成田着

専用バス・添乗員付き・上記日程の一部に参加すれば、他の日程の変更可能
旅費：20名以上で 232,000円
詳しくは、090-8003-7595 金谷迄

2. 平成18年度総会

日時：6月10日(土)14:30～17:30
場所：西船フローラ (JR総武線西船橋駅
徒歩3分 TEL: 0120-262427)
式次第：総会 14:30～15:00
講演 15:10～16:00
講師 常任理事橋口昭八氏
演題 「東ドイツ～今は昔」
懇親会 16:10～17:30

会費：4,500円

3. 対談「バルトの楽園撮影苦労話」(仮題)

出目昌伸監督と平尾浩三会長
終了後、立食パーティー
日時：6月28日(水)18:30～21:00
場所：OAG会館(地下鉄青山1丁目下車徒
歩7分、草月会館裏)
会費：会員 3,500円 一般 4,000円

「ドイツに親しむ3日間」を終えて 特集 4

司会進行・バザー担当 布施由未子

私にとってのドイツ年は六本木ヒルズに、ベルリン・ブランデンブルク門の隣の広場にいた熊達がやってきた時から始まった。昨年の「ドイツに親しむ3日間」では、見る側から企画する側に変わり、また違ったドイツを発見し、そして新たなドイツ好きの人達に出会えた。蚤の市に出品して下さった方々、特にトール・ペインティングを描いてくださった西川さん、道野さんの情熱、佐倉のマザー・ムーンさんの子供達に送るドイツ玩具のメッセージなど、心が温くなるような気がします。尚、今回バザーに出品して頂いた方々は、伊東惇子、加藤和子、木戸芳子、国枝誠昭、熊塙御堂真、島内毅、宗宮好和、内藤敏子、西川珠子、橋口昭八、橋口成、平尾浩三、古川修司、道野真知子、向井舜治、綿貫尚、布施由未子（あいうえお順、敬称略）でした。

訃報

奥田智重子(ちえこ)さん (声楽家、元国立音大教授、元千葉県日独協会顧問) 3月6日午前5時31分、急性心不全のため横浜市港北区の病院で死去、90歳。千葉市出身。葬儀・告別式は9日午前11時から港北区菊名2の1の5、妙蓮寺斎場で。喪主は長男で映画監督の土橋亨(どばし・とおる)さん。歌曲・オペラなど幅広く活躍した。放送タレントの永六輔さんは甥にあたる。当協会理事、金子三智子さんは姪にあたる。謹んでご冥福をお祈り致します。

「ドイツに親しむ3日間」特集 3

ステージオペレーションに就いて チーフ坂本宗秋

今回のイベントに際して舞台裏で活躍したステージオペレーションについて総括してみる。(敬称略)

- I 舞台進行係：古川修司、布施由未子、小野浩、館野鷹二郎、坂本宗秋他、千葉大学生。
- II 担当分野：
 ①上映ドイツ映画の選定、及び映写
 ②けやき会館内での式典、講演会、
 音楽会等開催時の舞台設定、照明、
 音響、パワーポイントによる案内。
- III 個別分野の総括
 - 1 映画：坂本・古川が担当、東京ドイツ文化センター(OAG)が所有し映写権を保有するドイツ映画借用を考えたがフィルムによる映写がけやき会館では不可能と判明。結局「橋」、「グッバイ・レーニン」の二本を選定しDVDにて映写。前者は(株)IVC社、後者は(株)ギャガ・コミュニケーションズと交渉し、今回の行事の社会的意義を説明し、両社を協賛として明示する事で、予算13万円を節約。映写は千葉大放送研究会の学生に協力を依頼。
 - 2 進行表の作成とパワーポイントによる会場での行事案内、会場・照明、音響等。舞台の照明、音響を効果的に行なう為に進行表の作成をOAGの村田崇夫氏から学び、布施・古川が出演者と綿密な打ち合せを行ない、極めて詳細な表を作成した。それに、古川が独自で工夫してパワーポイントにより行事案内等を作成。機器の不備は、進行係全員の努力で克服した。
 - 3 舞台上の机/椅子/マイクなどの配置は小野、館野を中心に照明、音声、音響を考慮しながら、出演者と相談してプログラム毎に決め、舞台に必要な道具類は3・4階から搬送。けやき会館ホールの防音が不完全でピアノ演奏などには、外部の音がホールに入り込み出演者・聴衆には不愉快な思いをさせたケースが発生したのは遺憾であった。
 以上、係全員が未経験ながら、お互いに協力をして満足できる結果になったと言えよう。